

## 程度副詞の名詞修飾 -カテゴリー帰属を表す働きに注目して-

梶原彩子

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

kajiwara.ayako@a.mbox.nagoya-u.ac.jp

### 1. はじめに

本発表では、程度副詞が「カテゴリー帰属を表す表現」として働く名詞修飾を検討する。まず、「カテゴリー帰属を表す表現」について、確認する。

以下の例(1)では、「ジョンは、bachelor(独身)である」ことが命題である。しかし、例(1)´では、”*regular* (全くの、相変わらずの)”という表現が、「bachelor(性的に奔放)である」という”*bachelor*”の内包的意味のみを修飾しており、例(1)のような「ジョンは、bachelor(独身)である」という命題は含意しない。

(1) John is a bachelor.

(1)´ John is a *regular* bachelor.      ※*regular* (全くの、相変わらずの)

また、次の例(2)も「カテゴリー帰属を表す表現」である。例(2)の命題は「家事や子育ても仕事である」だが、例(2)´では、「一般的には、仕事とは認識されていないが、家事や子育ても仕事である」という波線部の前提が強調されていると考えられる。

(2) 家事や子育てだって、仕事でしょう。

(2)´ 家事や子育てだって、立派な仕事でしょう。

≠ (2)´´ 家事や子育てという仕事は立派だ。

例(1)´の”*regular*”が「全くの、相変わらずの」という本来の意味ではない機能を果たすのと同様に、例(2)´の「立派な」も、「立派(すぐれている)」という基本的な意味での解釈はできない。

本発表では、程度副詞が、上記で見たような「カテゴリー帰属を表す表現」として働く用例を検討する。具体的には、次のような程度副詞の名詞修飾である。

- (3) 彼女はとても長女だ。だから、我慢強い。  
 (4) 彼女は非常に関西人だ。だから、何でも値切ろうとする。  
 (5) 彼女はすごく女だ。だから、彼女には、彼氏を紹介したくない。  
 (6) 彼女はかなり B 型だ。だから、24 時間一緒は辛い。

(3)、(4)において、「彼女」は、「我慢強い」、「何でも値切ろうとする」という「日本人」、「関西人」カテゴリーの成員が持つ(と信じられているステレオタイプの)性質を有していると解釈できる。同じように、(5)、(6)においても、「彼女」は、「(同性からは支持されないと思われる女性としての)魅力」や「勝手さ・我儘さ」といった性質を備えているという解釈ができる。

つまり、これらの文の命題は、「彼女」が「(長女・関西人・女・B型) カテゴリーの一部の性質が持っている特徴を持っている」ということである。

しかし、例文(3)～(6)から程度副詞を取り除くと、(3)´～(6)´のように、文法的には問題なく言えるが、表される内容がやや独断的だと感じさせる文になり、容認度にもばらつきが出る<sup>1</sup>。

- (3)´ ? 彼女は長女だ。だから、我慢強い。  
 (4)´ 彼女は関西人だ。だから、何でも値切ろうとする。  
 (5)´ ??彼女は女だ。だから、彼女には、彼氏を紹介したくない。  
 (6)´ ??彼女はB 型だ。だから、24 時間一緒は辛い。

例(1)(2)と同様に、これらの文の命題も、例文(3)～(6)では「ある(ステレオタイプのな)特徴を持っている」ことに焦点が当たっているのに対して、(3)´～(6)´では「彼女」が「{長女・関西人・女・B型}である」という事実に焦点が当たっている。そのために、「長女=我慢強い」「関西人=値切る」「女=魅力がある」「B型=わがまま」というような図式の想起がし易いものほど容認度が上がると思われる。

また、本来、程度副詞は名詞を直接修飾せず、することができるのは「美人」「お金持ち」といった程度性を持たない名詞であるとされる<sup>2</sup>。しかし、「{長女・関西人・女・B型}」といった名詞には程度性があるのだろうか。

以上のことから、これらの(3)～(6)のような程度副詞の名詞修飾は、ある(程度性を含んだ)名詞の程度を高める働きをしているというより、(程度を高める)程度副詞が名詞を修飾することによって、カテゴリーの成員が持つ「特定の性質」に焦点を当てる、つまり、被修飾名詞のカテゴリーの内包的意味のみを修飾していると考えられる。

## 2. 研究課題

本発表では、研究課題を次のように設定する。

- ①「カテゴリー帰属表現」として働く程度副詞は、どのような名詞を修飾できるのか。  
そこに何らかの特徴があるのか。
- ②(程度を高める)程度副詞が、カテゴリーの「ある特定の性質」に焦点を当てるのはなぜか。

## 3. 考察

ヘッジ表現として働く程度副詞がどのような名詞と共起できるか、および、カテゴリーのメンバーのどのような性質に焦点を当てるのか、実例を検討した。その結果、共起できる名詞は、以下(i)～(vii)を表す名詞に限られ、かつ、カテゴリー帰属を表す表現によって、焦点が当てられる性質は、言語共同体で広く共有されていない<sup>3</sup>ことが示唆される。

- (i) 生育地
- (ii) 兄弟構成
- (iii) 家庭内の役割
- (iv) 学歴
- (v) 社会的役割、職業
- (vi) 性別

## 4. まとめ

本発表では、カテゴリー帰属を表す表現として働く程度副詞の名詞修飾表現の考察を通して、共起できる名詞の制限と、焦点が当てられるカテゴリーメンバーの性質を具体例とともに示す。

また、「程度性を高めること」と、カテゴリーの特定の性質に焦点を当てることとの関係性を検討する。それに関連して、「程度性を低める」程度副詞は、カテゴリー帰属を表す表現として機能しにくいこと<sup>4</sup>を考察する。

それらを踏まえた上で、考察対象とした表現形式の表現効果についても検討したい。

## 注

- 1) 容認度の判断は、日本語母語話者5名に依頼した。(60代1名、40代1名、20代3名)  
東海地方、四国地方出身・在住の言語学や日本語学、日本語教育などを専門としない社会人である。
- 2) 佐野(1997)・時(2009)
- 3) この結果は、社会心理学による「ステレオタイプの情報処理」「社会的共有性」による説明と整合性がとれると思われる。

- 4) 「??少し長女だ」「??多少関西人だ」「??ちょっと女だ」のように程度性を低める副詞の名詞修飾表現は容認されないようである。その場合、名詞修飾の形式ではなく、「少し長女入ってる」「多少関西人入ってる」のように「入っている」で言い表されたり、「女の部分がある」のような表現が使われるようである。

#### 参考文献

- 今井忍 2008. 「日本語カテゴリー帰属表現について」 児玉一宏(編)『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集』 pp. 499-513 ひつじ書房
- 唐沢穰 池上知子 唐沢かおり 2001. 『社会的認知の心理学: 社会を描く心のはたらき』 ナカニシヤ出版
- 佐野由紀子 1997. 「程度副詞の名詞修飾について」『大阪大学日本学報』 大阪大学日本学研究、第 16 巻、pp. 121-133
- 時衛国 2009. 『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』 風間書房
- 辻幸夫(編) 2002. 『認知言語学キーワード事典』 研究社
- 高橋太郎(編) 2005. 『日本語の文法』 ひつじ書房
- 田和真紀子 2011. 「程度副詞の評価性をめぐって」『宇都宮大学教育学部紀要』 宇都宮大学、第 1 部 61、pp. 25-36
- 畠山雄二他 2014. 『ことばの本質に迫る理論言語学』 くろしお出版
- 榎山洋介 2010. 「百科事典的意味観」 山梨正明他(編)『認知言語学論考』 (9), pp. 1-37 ひつじ書房
- Lakoff, G. 1972. “Hedges: A Study in Meaning Criteria and the Logic of Fuzzy Concepts.” CLS8: 183-228